令和6年度小松市立第一小学校　学校評価　１（中間）

めざす児童生徒像

○　思いや考えを持ち、伝えることのできる子
○　友だちのよさを見つけることのできる子
○　互いに高め合うことのできる子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

	目標	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%）教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
学校重点項目（学校で設定）	自己肯定感の向上	自己肯定感	①②において９０％以上	①	教師は、児童のよさを認め、引き出す声掛けをしている。	100P (57+43)	92P (63+29)	76P (44+32)		①②とも目標指数に達している。 授業や行事を通して自己肯定感を高めていくことを意識した実践を行っていることが成果につながっていると考えられる。	児童と関わりのある職員（級外含む）も意識して、児童の良さを認める声かけをし、さらなる強い信頼関係を構築していけるようにする。また保護者にも児童のよさを伝えるようにしていく。
				②	教師と児童とが互いに信頼し温かい関係ができている。	100P (43+57)					
				③	キャリアパスポートを活用し、学びや成長を実感できるようにする。	41P (10+31)					
					集計						

	目標	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目					達成状況の分析	改善策
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善	働き方改革	①②において９０％以上	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	74P (34+34)				①は目標に届かず、②は目標指数に達しているが、Ａ評価の割合が少ない。取組は進めているが、働き方改革の成果としての実感がうすいことが要因と考えられる。	校務のDX化推進を加速させ、より効率的な業務を進め、実感を伴う形で時間外勤務削減や働き方改革につなげる。
				②	学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	97P (20+77)					
				③	効率的な業務の進め方を工夫している。	86P (29+57)					

	目標	項目	目標指標		評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（%）教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	①②③において90％以上	①	研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100P (62+38)				①②③のいずれについても目標を超えている。 研究の方向性やその方策を共有できるように，具体的な提案を心掛けてきた。また，研究授業の参観についても児童のつまずきの予想とその手立てが有効であったかをふりかえることができるように，座席表などを用いて視点をはっきりさせるようにした。	研究授業を単発で終わらせるのではなく，成果と課題を次に生かせるようにしていきたい。そのために，研究だよりや研究掲示板などを用いて全体に広めていきたい。また，研究授業の教材研究を中心にして，児童のつまずきを予想しその手立てを考えていく。各学級の目指す授業目標を学校全体で共有できるように掲示などの工夫をしていきたい。
				②	授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100P (61+39)					
				③	児童のつまずきを予想し、そのための手立てを考えた授業実践に取り組んでいる。	100P (48+52)					
					集計						
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①②⑦において 児童教師共に８５％以上	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	88P (16+72)	92P (49+42)			①④⑤⑦において，児童教師ともに目標指数を超えた。 「授業力改善チェックシート」を用いた教師自身のふりかえりをもとに授業改善をはかってきている成果が見られる。また，教師児童共に話し合い活動や振り返りを大切にする意識が共有できていると考えられる。 ②③⑥については，教師より児童の方が５pt以上高かった。児童と教師間で「できた」と判断する基準が異なっていると考えられる。とくに⑥については開きが大きい。	②について，話し合い活動が目的になっていることが考えらえる。どのタイミングでどのような目的で話し合い活動を取り入れるのか，どんな相手に話をさせるのか，を意識できるようにしていきたい。 ③について，今年の研究の重点にもある「図・式・言葉による思考の視覚化」をより明確に実践できるように，研究授業などの授業研究を通して取り組みを具体化していきたい。 ⑥について，GIGA研修などで具体的な取り組み方法を共有し，積極的に取り入れていきたい。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。	78P (13+66)	89P (53+36)				
				③	児童生徒は、自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。	69P (13+56)	87P (51+36)				
				④	児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	81P (6+75)	90P (58+32)				
				⑤	児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。	91P (9+81)	91P (57+34)				
				⑥	児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	55P (19+35)	94P (66+28)				
				⑦	児童は、図や式、言葉を関連付けて説明したり、問題解決したりしている。	80P (13+67)	88P (57+31)				
					集計						
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	②③ において９０％以上	①	指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	94P 33+61)				②③において、目標数値の90％を超えることができた。全教職員で教育課程の実施、ふり返り、改善点の検討などを行うことができた。 ④は、小中連携の具体的な取組実施は、夏季休業以降になるため、数値が低くなったと考えられる。	学校力向上ロードマップやカリキュラムマップなどを効果的に活用しながら、学校教育目標の実現に向けて各部会が取組を進めたり、各学年で教科のつながりを意識しながら授業づくりをしたりすることで、さらに学力向上の取組を進めていきたい。 ④においては、夏季休業中に情報交換したことを全教職員で共有して２学期以降の取組にいかしていきたい。
				②	児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している。	94P (44+50)					
				③	全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	94P (40+54)					
				④	校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	50P (12+38)					
					集計						
		家庭学習	①において９０％以上	①	家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	76P (29+47)	84P 46+38)			①②について、学校としてどのように進めていくのかの共通理解が不十分であることがわかる。しっかりと全教職員で取組のねらいを含めて共通理解する必要がある。	①②においては、家庭学習の意義や目的、取り組み方などを学校としてどのようにしていくのかについて、共通理解し、全教職員で取り組んでいけるようにしたい。
				②	学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	79P (24+55)	88P (63+24)				
					集計						